



海外から 研修員等に聞く



アラウナ・イブラヒム・アティー・ムフアディさん
ヨルダン・ハシェミット王国
Mr. Ibrahim Alawneh Atieh Mufadai
ヨルダン農業省家畜生産課、農業技術者
JICA帯広「循環型酪農システムコース」
(2004年8月8日～10月27日)で研修。

▶ 既刊35号に続き再登場

昨年秋インタビューした時、アラウナさんは研修の話より故国の歴史遺産や観光資源について話したそうであった。そこで別れ際に帰国された後になるが「ヨルダンの歴史についてもう一度載せましょう」と約束した。

▶ ヨルダンってどんな国？

非産油国で、ヨルダン経済は石油輸入など大きくイラク市場に依存してきたため、イラク戦争勃発以来大きな影響を受けている。

7世紀以降イスラム諸王朝、16世紀からはオスマントルコ、1919年英の委任統治を経て、1946年独立。交通の要路という利点を生かして欧米や近隣諸国と関わってきたが、国の将来はパレスチナ問題、中東和平の行方と無縁ではない。パレスチナ難民を多く受け入れ、その人口の割合は7割に及んでいる。厳しい現状にもかかわらず「みんな仲良くやっていますよ」とこやかに話すアラウナさんを見ていると和平への希望があることを願わずにいられなかった。



▶ 数千年の歴史遺産

首都アンマンから南へは5千年にわたる古代の遺跡が続くので「王の道」と呼ばれている。5-7世紀のモザイク画で有名なギリシャ正教の聖ジョージ教会があるマダバは「モザイクの町」と呼ばれている。近郊にあるネボ山は予言者モーゼが約束の地カナンを眺めた場所とされるなど旧約聖書の世界にも事欠かない。さらに南へ、太陽を受けてピンク色に輝くのは、ユネ

スコ世界遺産のひとつ、砂岩にくりぬかれたベトゥラの遺跡である。南部山岳地帯にある古代都市遺跡で、紀元前9世紀の居住跡がある。106年にローマに併合されるまで存続した。遺跡など歴史好き、考古学好きには堪えられない国である。「観光地として一級品です。是非、見に来て下さい」と端正なジェントルマンのアラウナさんの言葉が熱を帯びた。

▶ ヨルダン渓谷と死海

しかし、最大の観光資源は「死海」である。アフリカ東部のリフトバレーが北に延びてヨルダン川からアカバ湾へ至る大地溝帯、ヨルダン渓谷になる。「水面は海面下約400m。地球の陸地上で最も低い場所です」。最深度は433mあるが全体には浅くて10mくらいだそう。年間降水量が50ミリの酷暑の地で、流出河川がないため、流入水と蒸発量が等量とみられ、湖水の比重1.19、平均塩分32%の水で「つかると自然に身体が浮き上がります。不思議な感覚です」とアラウナさん。

古代以来ほとんど変化していないことで観光客に人気がある。日光浴、水泳、身体が沈まない湖水でのリラクゼーション、湖底のミネラル成分を含む泥が癒しになると人気があるそうだ。

国土面積9.8万km²(日本の約四分の一)、人口 548万人(2003年)、首都 アンマン(Amman)。人口構成はアラブ人(パレスチナ系6割以上)北コーカサス系。言語はアラビア語(英語も通用)。

宗教 イスラム教 93%、キリスト教等 7%。為替レート 1JD=約1.41米ドル=約152円(2003年)



死海の湖岸風景。手前は塩のかたまったもの(ヨルダン政府観光局)

NRCニュース

四島交流「日本語研修」始まる

4年目を迎えた「北方四島交流“日本語習得研修”」は5月17日、JICA札幌国際センターに第1陣の10名を迎えて今年も順調に始まった。一行は新たなであいの中で「日本語をたくさん覚えて両地域の交流の架け橋に」と、抱負を語ってくれた。6月16日まで札幌での日本語研修、その後、根室に移動し、交流を深めて帰島する。(事業部)

北方圏センター 「国際交流ボランティア」を新設

国際交流に理解があり、活動に意欲的な人たちに、北方圏センターや国際交流団体等の実施する各種交流事業に積極的に参画・参加してもらおうという目的で平成17年度、これまでのボランティア通訳者登録を拡大して設けた。

対象は道内に在住する満18歳以上の方で、英語、中国語、ロシア語、韓国語等に堪能であること。審査を経て国際交流ボランティアとして登録後、北方圏センターや市町村、国際交流団体等の各種交流行事に主催者側とともに通訳・翻訳のほか、北方圏センターの交流事業の際の通訳や事業の実施に協力する。登録期間は2年間(詳しくは事業部まで)

平成17年度北方圏センター通常総会で 新会長に南山英雄氏(平成17年5月20日)

社団法人北方圏センターは5月20日午後、札幌市内のホテルで総会を開き、平成17年度の事業計画、収支予算を原案通り可決、承認した。

また、泉誠二会長、斎藤明副会長が退任し、会長に南山英雄・北海道電力会長、副会長に北村正任・毎日新聞社長が選任された。

恒例の会員交流パーティには、高橋はるみ道知事、シェフチュークロシア連邦総領事、呉榮煥韓国総領事などの来賓を迎えたほか、外国人12名を招待した。パーティ席上、今年度の会員海外招待旅行の韓国旅行の抽選が同国総領事によって行われ当選者が発表された。(総務部)

北海道海外技術研修員・ 通訳員養成研修生修了式(平成17年3月18日)

北方圏センターが北海道より受託して受入を実施した、北海道海外技術研修員(平成16年6月～)、通訳員養成研修生(同7月～)の修了式が行われ、習得した技術や様々な思い出を持って帰国した。

一方、平成17年度北海道海外技術研修員4名が南米諸国から6月半ばに来札する。日本語研修の後、7月より札幌市内の企業・大学等で専門研修を行う。6月下旬には中国から協力交流研修員、7月にはサハリンから通訳員養成研修生が相次いで来札する。(国際協力部)



北海道海外技術研修員等の修了式